

再評価結果（平成20年度事業継箇所）

担当課：都市・地域整備局街路課
担当課長名：松谷 春敏

事業名：大阪外環状線連続立体交差事業 （仮称 柏田駅付近）	事業区分：街路事業	事業主体：大阪府
起終点：自：大阪府東大阪市永和1丁目 至：大阪府東大阪市衣摺5丁目		延長：2.2 km
事業概要：本路線は「大阪外環状線計画」における城東貨物線の旅客化や「東大阪新都心整備計画」等による、まちの活性化に伴い発生が予測される交通混雑を鉄道の高架化により解消し、また周辺市街地の一体化や再整備などを目的として策定された事業である。		
S58年度事業化	H10年度都市計画決定	H10年度用地着手
		H14年度工事着手
全体事業費	197億円	事業進捗率
		79%
踏切交通量	52,600台/日	供用済延長
		km
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 2.1 (残事業) 25.0	総費用：(残事業)/(事業全体) 11/129億円 (事業費：11/129億円 維持管理費：0/0億円)
		総便益：(残事業)/(事業全体) 275/275億円 (移動時間短縮便益：185/185億円 走行経費減少便益：90/90億円 交通事故減便益：0.00/0.00億円)
		基準年：平成19年
事業の効果等 <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道高架化が完了後、踏切が除却され踏切事故の解消、踏切遮断時間が解消され交通渋滞の緩和が図られる。 ・鉄道高架化することにより、市街地の分断が解消される。 ・駅の高架化にあわせて、駅前などの周辺の街づくりを一体的に進めることにより、駅前広場や駅周辺の道路整備が促進され、交通結節機能が向上し、地域の活性化が図られる。 ・高架下に公共施設や商業施設が整備され、地域住民の利便性が地域のふれあいの場の創設などの効果が期待できる <p style="text-align: right;">外4項目に該当</p>		
関係する地方公共団体等の意見 地域住民の事業に対する理解は深く、事業の早期完成に対する要望が強い。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等 踏切交通量の状況や旅客線開業時に想定される鉄道の運行計画の変化はない。またH20年春に高架化工事完了予定である。		
事業の進捗状況、残事業の内容等 再々評価時点において、進捗状況は用地68%、工事76%となっている。用地買収については、本線部分は既に終了しており残用地についても、JR西日本用地が約24%程度を残すのみである		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等 高架工事については、大阪外環状鉄道の放出駅から久宝寺駅間の平成20年春の開業予定に併せ完了予定である。側道工事については、平成19年度～平成21年度の3年で側道整備を行う予定。		
施設の構造や工法の変更等 高架構造物の構造変更によるコスト縮減 （高架構造形式 軌道2線・橋脚3柱 軌道2線・橋脚2柱）		
対応方針：事業継続		
対応方針決定の理由 事業の必要性が認められ、かつ事業進捗上も特段の支障がないと考えられるため。		
事業概要図 <p style="text-align: center;">次ページ</p>		

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

事業概要図

